多摩市図書館協議会会議次第

〔令和８年度第３回定例会〕

令和８年８月１９日(水) 午後２時３０分から　多摩市立中央図書館活動室２・３

【議題】

１　令和７年度多摩市立図書館事業評価について

【報告】

１　活動室使用料の改定について
２　多摩市立中央図書館における座席予約システムの導入について　※資料なし
３　市民協働イベント決定会議の開催について　※資料なし
４　大学生のインターンシップ及び教員の実習受け入れについて　※資料なし

資料１　　令和７年度多摩市立図書館事業評価【図書館協議会による評価】(様式3)
資料2　　活動室使用料の改定について

資料１

令和８年８月 19 日
図書館協議会資料

様式３

令和７年度多摩市立図書館事業評価【外部評価】

（１）評価対象施策（第二次多摩市読書活動振興計画の施策より多摩市図書館協議会で選定）

・１．基本方針１　だれもが使える図書館
　　施策１－６　読書バリアフリーの推進
・２．基本方針２　一人ひとりの子どもに寄り添うサービス
　　施策２－１　本に親しむ機会の充実
・３．基本方針３　市民のしらべるを支え、役立つ図書館
　　施策３－２　多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実
・４．基本方針４　持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化
　　施策４－３　ボランティア活動の促進

（２）評価対象施策、取組み事項ごとの実施結果、自己評価

基本方針１　評価対象施策

１．施策１－６　読書バリアフリーの推進

施策１－６読書バリアフリーの推進の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「個々の特性に応じたサービスの提供・拡充」 ・障がい者サービスの充実	
実施結果	・障がい者サービスの充実として、希望図書の音訳資料、点訳資料、点字絵本などを作製した。 音訳図書４タイトル、音訳雑誌 18 タイトル、点訳資料２タイトル ・定期的な対面朗読について、図書館内の障がい者サービス担当と連絡調整を行い、円滑に実施した。実施回数・実施館：17 回（永山）・34 回（聖ヶ丘） ・視覚等の障がいがある方の読書を支援するため、障がい者等用情報機器の貸出を行った。　貸出件数：５件 ・図書館に来館することが困難な利用者が希望する図書などを、自宅や高齢者施設、多摩市内の病院まで、お届け、回収する宅配サービスを行った。　実施回数 72 回 ※宅配サービスは職員だけでなく「宅配サービスボランティア」も請け負っている。
自己評価	・アクセシブルな資料整備や対面朗読、やさしい日本語による案内等の提供により、利用に配慮が必要な市民も図書館サービスを利用しやすくなり、読書機会の拡大につながった。また、宅配サービスにより、図書館に来館できなくても本を読むことができる環境を提供できた。
② 取組み事項「だれもが利用しやすいアクセシブルな書籍等の充実」 ・「やまばと通信」、多摩市電子図書館の利用案内や、小説等をテキストデイジー化し、利用者へ提供する。【サービス】【継続】	

実施結果	・多摩市電子図書館の利用案内のテキストデイジーを作成した。作成数１冊。 ・東京都、障害福祉課と連携し、障がい者対象のスマートフォン教室を中央図書館で開催した。参加者 20 人
自己評価	・障がいのある方だけでなく、だれもが使える資料も整備することで、より多くの方の読書推進につなげることができた。また、紙の本が読みにくい方に対し読書を促すきっかけとなり、読書に困難がある方だけでなく、周りの方にも資料を知ってもらうことで当事者の利用につなげることができた。 ・スマートフォン教室などで職員が案内することによりオーディオブックなどが利用できる電子図書館の利用のハードルを下げることができた。
③ 取組み事項「点訳者、音訳者、電子データ製作者等の計画的な人材養成」 ※「令和７年度多摩市立図書館事業計画」策定時には具体的な記述は記載していなかった項目	
実施結果	・DAISY 編集者養成講習会（レベルアップ講習会：全３回）を実施した。参加者８人 ・障がい者サービスの継続及び充実を図るため、令和８年度に音訳資料作成及びデイジー編集を担う行政協力員の新規養成講座実施に向けて計画を策定した。全 15 回で実施予定。
自己評価	・音訳資料や点訳資料の作製や対面朗読に関わる音訳者、点訳者の育成講習会や音訳技術の向上を目的とした研修や講習会を開催することにより、一定の基準を保つことができている。 ・今後のサービスの充実と持続可能な運営を考慮すると新規協力員の育成は必須である。
④ 取組み事項「関係機関等と連携した障がい者サービスの周知」 ・音訳資料の作成や貸出、障害福祉課やケアマネジャー等関係各所を通じた対面朗読等の事業の周知、映画上映会等のイベントの実施により、図書館を利用するのが困難な市民にも本に親しめる機会を提供する。【サービス】【継続】 ・定期的な対面朗読を引き続き実施し、中央図書館障がい者サービス担当と連携し円滑に実施する。【聖ヶ丘】【継続】 ・やさしい日本語による利用案内を作成する。【企画１・サービス】【新規】	
実施結果	・誰もが本に親しめる機会を提供するため音声ガイドや日本語字幕付きの「バリアフリー映画会」を実施した。上映映画タイトル：「じんじん」　参加者 12 人 ・「冬のスペシャルおはなし会」で手話を含めたおはなし会を実施した。参加者 73 人 ・中央図書館バックヤードツアーを手話付きで実施した。参加者 31 人 ・聴覚障がい者団体の中央図書館見学を受け入れ、図書館サービスについて案内した。参加者 44 人 ・「声のやまばと通信」や多摩市電子図書館の利用案内を提供し、図書館を利用することが困難な市民に速やかに情報提供をした。年６回作成 ・「やまばと通信」７月号に障がい者サービス紹介記事を掲載し、利用者に周知した。 ・障害福祉課やケアマネジャー等の関係機関と連携し、障がい者サービスの周知を行った。 ・７、８月に、中央図書館にて障がい者サービスに関する企画展示を行った。 ・「やさしい日本語」による利用案内について、ＬＬ版の利用案内のひな形を活用し、作成に着手した。 ・りんごの棚で手作りのリーディングトラッカーの配布を行った。

自己評価	・障害福祉課や関係施設との連携により、支援を必要とする方へ情報を届ける機会を増やすことができたとともに宅配サービスの利用増加につながった。 ・図書館の利用方法について、やさしいことばやピクトグラムで表記することで知的障がいがある方にもわかりやすくなった。 ・活字を読みにくい方に対し読みやすくなるツールを、実際に手に取ってもらうことで存在を知ってもらうことができた。

施策１－６への外部評価等について

各種評価

※（施策全体の中から）アンケートや市民の声などからの評価を記載

・バリアフリー映画会のアンケート結果

85．6％が満足・やや満足と回答。不満の回答はなかった。感想としては「いい機会になった」「とても良い作品でした」「またイベントがあったら行きたい」「とても有意義」「図書館、絵本、絵本の読み聞かせをモチーフにした映画で図書館選択の映画らしいなと思いました」「バリアフリー映画会が日常化されることを願います」といったものが寄せられた。また今後実施してほしいイベントとしては「映画会」「大人のための読み聞かせ」「バリアフリー上映会」が挙げられ、合わせて「毎月とは言わないが時々開催してほしい」といった声が寄せられた。

・聴覚障がい者団体の中央図書館見学参加者の声

参加者から蔵書の多さに驚いた、図書館を利用したい、1階の座席を利用したいなど好意的な感想が寄せられた。

図書館協議会による外部評価

・図書館の障がい者サービスについて障害福祉課と連携しケアマネジャーの会議に出席しPRした結果として宅配サービスの利用回数の増加や、視覚障がい者用機器（プレクストーク）の貸出実績として表れており、概ねサービスが提供され、評価できる。

・音訳者養成講座について令和8年度に実施する講座の募集は締め切ったとのことだが、これから行う養成講座の様子をSNSなどで発信できると、音訳者の活動に対して市民の認知を広げるとともに、次回養成講座を開催する際に関心がある市民が応募する動機付けにもなると考えられるので検討してもらいたい。

・年度ごとに数値目標が立てられていたり、自己評価に、実績や評価の経緯も記載していると、外部評価しやすい。

今後の方向性

図書館による今後の方向性

※図書館協議会の外部評価を受けて、今後の事業の進め方、方向性について記載

基本方針２　評価対象施策

２．施策２－１　本に親しむ機会の充実

施策２－１の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「おはなし会の充実」

・図書館で赤ちゃんおはなし会を実施するだけでなく、近隣や併設している児童館と連携し、

赤ちゃんおはなし会を実施する。【聖ヶ丘・東寺方・豊ヶ丘・唐木田】【継続】 ・赤ちゃんおはなし会では、読み聞かせだけでなく、保護者向けの資料の紹介や、おすすめの絵本の展示等を行う。【聖ヶ丘・永山・サービス】【継続】	
実施結果	・図書館内での実施だけでなく、児童館等と連携し定期的に実施した。赤ちゃんおはなし会実施回数（全７館合計）：98 回、参加人数：1,301 人（うち子ども：660 人） ・**全館で年間に実施したおはなし会は、351 回。参加者数は、4,437 人となり、うち子どもの参加は、2,446 人であった。** パルテノン多摩こどものひろばＯＬＩＶＥや児童館事業の実施状況に応じた出張により実施した。実施回数：４回、参加人数：73 人（約半数がこども） ・赤ちゃんおはなし会で、保護者向けに毎回テーマを決め、４～６冊紹介した。併せて、後日貸出や予約が簡単にできるようリストの配布も行った。（永山） ・書架整理などのフロアワークを通じて、子どもたちと直接触れ合う時間を意識的に増やした。（関戸・永山） ・近隣保育園などへ声掛けし、散歩の際の立ち寄り場所として来館を促し、フロアワークを行うとともに定期的な読み聞かせを実施することにつなげた。地域ごとに開催されている子どもに関係する会議などの場を活用し、保育園との情報交換も定期的に行った。 実施館：関戸・永山、実施回数：57 回（関）・12 回（永）、来館人数：こども 658 人（関）・こども 42 人（永）
自己評価	・赤ちゃんおはなし会を、全図書館で実施できた。新築マンションなどへの子育て世代の流入によって、大幅な参加者増となった館もあり、おはなし会はもとより、図書館の認知度向上にもつながった。**またおはなし会全体では、前年を上回る回数、参加者となり、子どもたちが様々なお話と出合える機会を生むことにつなげることができた。** ・赤ちゃんおはなし会で保護者に向けたテーマを毎回設定し、おすすめ本や子育て関連資料を紹介するとともに、図書館利用や乳幼児期からの読書について伝えることができた。 ・フロアワークを意識的に増やすことで、保護者や親子などに本を紹介するきっかけを増やすことができた。保育園と直接つながりを持つことで、来館につながり、子どもたちへの読み聞かせの実施にもつなげることができた。
② 取組み事項「イベントの充実」 ・児童コーナーで、乳幼児や、散歩等で来館した保育園児への読み聞かせ等のフロアワークを日常的に行う。【永山】【新規】 ・子どもが本や図書館に親しみをもてるように、おはなし会やクイズラリーなど、イベント等の内容を工夫し、また、興味・関心・感想等をキャッチできるよう工夫しながら、実施する。【全館】【継続】 ・夏休みなど、学校の長期休業期間やほんともフェスタに合わせ、スペシャルおはなし会やイベントなどを実施する。【全館】【継続】 ・夏休みに、自由研究に関する展示を行う。【全館】【継続】	
実施結果	・イベントを実施する際は、子どもたちの生の声を聞く貴重な機会と捉え、**児童対象の講座で**アンケートを実施した。アンケートで得た子どもたちの興味や関心**（工作など手を動かす作業が多めのイベント、宇宙や星、絵を描くなど）**を**令和８年度に実施する**小学生、中学生を対象とした講座等**のテーマ**検討の際の参考とし、**手を動かすモ**

	ノづくりの要素を取り入れた内容とした。（企画２） ・児童館等の主催事業への参加や、場所をお借りするなど、連携して絵本の読み聞かせを実施した。（企画２・豊ヶ丘・東寺方・唐木田） ・中央図書館では新たに落合児童館と連携し、ベビー、キッズそれぞれの時間、全３回訪問（延べ 19 組参加）し、各回 10 冊ほどを読み聞かせたり、紹介したりする機会を持つことができた ・各種講座やイベントなどを学校の長期休業期間に合わせて実施。講座（２種）：168 人（中央）、謎解き：72 人（東寺方）、クイズ：108 人（豊ヶ丘）、ビンゴ：293 人（関戸）、理科実験・一日図書館員：16 人（唐木田） ・夏休み、冬休みなどにスペシャルおはなし会を実施。13 回、参加人数：342 人（うち子ども：212 人）（中央・東寺方・関戸・聖ヶ丘・永山・唐木田） ・３月ほんともおはなし会を実施。実施回数：41 回（この内、赤ちゃんおはなし会：９回）、参加人数：子ども 350 人
自己評価	•どのイベントも、子どもたちが楽しく参加している様子がうかがえた。特に、ほんともフェスタの中学生以上を対象とした天文の講座では、ターゲットの中高生の参加が多くあり、また申込方法をグループで申し込めるように工夫した結果、友人に誘われて参加するなど、新たな来館者の獲得につながった •児童館等と連携することで、絵本の読み聞かせだけにとどまらず、子育てに関連する資料などを介して、保護者との距離が縮まり、様々なお話をする時間を持つことができ、図書館も子どもだけでなく保護者の居場所として機能できると感じられた。
③ 取組み事項「保護者への働きかけ」 ・プレママ・プレパパ期からの家庭での読み聞かせの案内方法等の検討を開始する。【企画運営２】【新規】 ・ブックリスト「絵本はともだち」の改訂に向けた検討を実施する。【企画２】【継続】 ・図書館ホームページの子どもの読書に関わるページ全体の掲載方法の検討を開始する。【企画２】【新規】	
実施結果	・子連れの方だけでなく、プレママ・プレパパ期の方の立ち寄りもあると想定し、6 月開催の「たまこどもフェス」へ初めて参加した。ブースを２カ所お借りし、それぞれに図書館資料を配置、来訪者（約 270 人・うち子ども 115 人）に自由に見ていただいた。室内では個別や少人数に読み聞かせを行い、野外テントではおはなし会（15 人参加・うち子ども９人）を実施した。 ・８月中央図書館で、プレママ・プレパパ企画展示「あかちゃん　いらっしゃ～い！」を実施した。期間中、約 80 冊の資料を展示スペースへ配架するとともに、ブックリストを作成し、配布した。またこのブックリストは、その期間中のブックスタートの該当者にも配付し、有効活用した。 ・ブックリストへの掲載候補となる絵本等の選書を進め、64 冊を選定した。すべてをブックリストに掲載することは難しいが、ＱＲコードなどを活用するなど、より多くの絵本等を紹介できる方法や保護者の方の参考となる構成について検討した。 ・公共施設４か所（市役所４階、ベルブ永山３階、総合福祉センター３階、アクアブルー多摩３階）に設置している絵本の入れ替えを、年１回実施した。また、図書館案内やブックリストの配置も実施した。市役所内の部署移動に伴う変更もあったため、

	ホームページの掲載内容や写真について、実際の設置状況に合わせた内容に変更した。
自己評価	・図書館内での企画展示やターゲットを子どもやその保護者としているイベントへ参加するなど、保護者やこれから保護者となる方々へ向けて直接、子どもたちが本に親しむことの大切さ、家庭での読み聞かせの大切さなどについて直接お話する機会を得ることができた。 ・ブックリストの改訂に向けた検討を進めることができた。 ・子どもやその保護者が多く立ち寄る公共施設4か所へ、各所管との連携により本や配布物の設置を継続して行うことができた。子どもが立ち寄る可能性のある、読書がメインではない公共施設への図書の設置は、普段あまりなじみのない子どもやご家庭にも本に触れる機会をもたらす取り組みとなっている。

施策２－１への外部評価等について

各種評価

・児童対象講座のアンケート結果

満足度としては、どちらの講座（小学生向け、中高生向け）も90％以上の方が「満足」以上と回答。年齢（低学年）や得意不得意という部分で、多少の難しさを感じるケースはあったものの、分かりやすい説明や解説で、面白い・楽しいと感じることにつながり、満足感を得ている参加者が多くいた。今後も同様の講座を希望する声が寄せられた。

興味、関心があることをアンケートで聞き、「工作など手を動かす作業が多めのイベント」、「宇宙や星」、「絵を描く」などの声が寄せられ、次年度の講座テーマを検討する際の参考とした。

図書館協議会による外部評価

・おはなし会は、子どもが小さい頃からおはなしに触れる貴重な機会である。読む力がある子どもは、保護者が小さいころから読み聞かせなどの機会をつくっている場合が多く、おはなし会の回数、参加人数とも増えていることは評価できる。

・公共施設4か所への絵本の設置は、さまざまな場所で本に触れる機会が得られよい活動である。また本の入れ替えもできたことは良かった。

今後の方向性

図書館による今後の方向性

※図書館協議会の外部評価を受けて、今後の事業の進め方、方向性について記載

基本方針３　評価対象施策

３．施策３－２　多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実

施策３－２の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「多様な情報源を活用したレファレンス機能の強化」

・レファレンスサービスを利用促進することで事例を蓄積し、定期的にホームページ上で公開する運用を検討、実施する。【企画３】【継続】

・図書館システムに登録したレファレンスデータをレファレンス協同データベースに登録す

る。【企画３】【継続】 ・図書館ホームページ等で、図書館で使えるオンラインデータベースや調べもの等に使えるサイトについて情報発信する。【企画１・３】【継続】	
実施結果	・レファレンスサービスの利用促進を図るため、事例の蓄積及び定期的な公開方法について検討を行った。多摩市立図書館ホームページ上でのレファレンス公開件数は 202 件であった。**令和７年度の相談件数は、94,624 件。うち、時間を要した調査 108 件、WEB レファレンスが 24 件であった。** ・図書館ホームページで公開しているレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録し、新たに 15 件を公開し、**計 203 件を公開している。内１件は未解決事案。** ・図書館内で利用可能な調べものに役立つオンラインデータベースについて、「やまばと通信」で２種**「日経テレコン２１」「ジャパンナレッジ」**を紹介するとともに、パスファインダー等を通じて周知した。オンラインデータベースを含む利用者用インターネット端末の利用件数は、全館合計 2,659 件であった。
自己評価	・図書館利用者に向けては「やまばと通信」やパスファインダーの配布、利用者用インターネット端末の提供などを通じてデジタル情報を含めたレファレンスサービスの提供を行い、利用促進や機能の強化を図ることができた。オンラインデータベースを「やまばと通信」で紹介することにより、閲覧回数が掲載前よりも増加するなど認知度が高くなった。 ・また、多摩市立図書館ホームページ上や国立国会図書館レファレンス共同データベースで公開を行いレファレンス事例を周知することで、非図書館利用者に向けてもレファレンスサービスの提供を行うことができた。
② 取組み事項「利用者の図書館資料や情報活用（情報リテラシー）の支援」 ・オンラインデータベースの利用講座を実施する。【企画運営１・３】【継続】 ・講座等を通して国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの利用促進を図る。【企画運営３】	
実施結果	・電子図書館利用説明会において、電子図書館で利用できる音楽配信データベースの案内を行い、2,268 回閲覧された。 ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて、概要を記載したチラシを配布し、利用促進に向けた情報提供を行い、利用件数は全館合計 57 件であった。
自己評価	・電子図書館や国立国会図書館デジタル化送信サービスなど、図書資料と比較して認知度の低いデジタル資料について情報提供や利用説明会を行うことで、利用者への情報活用の支援を行うことができた。

施策３－２への外部評価等について

各種評価 ・やまばと通信270号（令和7年11月1日発行）で紹介したデータベース2種のうち「日経テレコン21」は掲載後の利用回数が増えた。 【掲載前後のアクセス数の比較（掲載前後6か月間・月平均）】 令和7年5月～10月の平均：月570回 令和7年 11 月～令和8年4月の平均：月4166回

図書館協議会による外部評価 ・実績にオンラインデータベースについて「やまばと通信」で紹介することにより、掲載前後で利用回数に変化があったのかなど具体的に記載してあったほうが外部評価しやすい。 ・レファレンス件数について図書館ホームページでの公開件数 202 件、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに新たに 15 件公開したとあるが、令和7年度のレファレンス件数も記載すると活動がわかりやすくなる。

今後の方向性

図書館による今後の方向性 ※図書館協議会の外部評価を受けて、今後の事業の進め方、方向性について記載

基本方針４　評価対象施策

４．施策４－３　ボランティア活動の促進

施策４－３の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「ボランティアや行政協力員の活動の促進・支援 ・市民協働でのイベント等を円滑に実施する。 ・市民協働イベントのチラシのフォーマットを作成し、チラシ作成を効率的に行えるようにする。【企画運営１】【新規】 ・新たに募集した植栽ボランティア活動が円滑に実施できるように運用していく。【総務】【新規】 ・東寺方図書館友の会が主催するリサイクル本の交換会の活動の要請を受けて連携・支援を行う。【東寺方】【継続】	
実施結果	・市民が図書館と協働し、主体的に運営するイベントの企画を募集、図書館ホームページで公開後、実施企画の決定を市民参加で実施後、決定したイベントを実施した。 募集・公開期間：令和７年７月～８月（令和７年 12 月～令和８年３月実施）・令和８年１月～２月（令和８年６月～９月実施） イベント決定会議：２回　９月６日（１回目）・３月 15 日（２回目）　参加人数：34 人（延べ） 実施したイベント：４イベント（プラモデル体験会／図書館の新計画を市民のためのサービスに具体化しよう／製本体験～自分で書いて作った本を図書館に！！～／本と。語り合い『宇宙、妖怪、本づくり』） 実施期間：令和７年 12 月～令和８年３月　参加人数：100 人（延べ） ・新たに募集した植栽ボランティア活動（敷地内美化活動を通じて、自然に触れる機会の提供や、より図書館に親しみを感じていただく）が円滑に実施できるように、活動をサポートした。　植栽ボランティア：４人（中央） ・複合施設の特性を活かし地域の方々と連携したリサイクル本交換会を実施した 実施日：３月 14 日、15 日　実施場所：東寺方図書館正面企画図書コーナー ・図書館ホームページに掲載している内容について、７月に各団体の活動実態に合わせた内容に変更した。掲載団体数：20 団体

	また３月には、イベント「ほんともフェスタ」での団体紹介展示を実施した ・図書館おはなし会ですでに活動している方と外部で活動している方で構成された団体が新たに発足し、おはなし会を定期的に開催し、特別おはなし会も開催した。定例：４回、特別：１回　（東寺方）
自己評価	・市民協働イベントについて参加や実施方法の仕組み作り、おはなし会ボランティアの活動支援体制など環境を整えることにより、市民の主体的な参画が進み、図書館や読書活動の活性化と協働の推進につながった。

② 取組み事項「ボランティアや行政協力員の養成」

・令和６年度に実施した市民協働イベントの結果を受け、フォローアップ講座を開催する。【企画運営１】【新規】

・図書館定例おはなし会ボランティアの育成として、おはなし会ボランティア希望者に向けた、読み聞かせ講座を開催し、フォローアップを実施する。【企画２】【継続】

・おはなしボランティアとして活動している団体の PR を図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報で実施する。【企画運営２】【継続】

・新規に登録したおはなし会ボランティアを受け入れ、ボランティア活動の定期的な実施を行う。【東寺方】【新規】

実施結果	・市民協働イベントのフォローアップとしてワークショップ「わたしたちの図書館トーク～語ろう・つくろう・つながろう。図書館と協働の一歩～」を実施し、令和６年度の市民協働イベントの募集、決定、実施を振り返りながら、話し合った。 実施日・場所：６月１日　中央図書館活動室１　参加人数：14 人　講師：岡本　真氏 ・ブックスタート多摩市絵本かたりかけ事業に協力するボランティアを３人増員し、新規ボランティアに対する心得などの研修を１回実施した。 ・都立多摩図書館の司書に講師を依頼し、集団に対する読み聞かせについて実演やワークショップを交えた講座（初級・中級）を実施した。また、講座修了者を対象に図書館員によるフォローアップを実施した。フォローアップは複数人での実施とし仲間づくりにつながるよう行った。 初級５月 24 日、31 日、６月 21 日（全３回）　受講人数：28 人 中級９月 27 日　受講人数：21 人 フォローアップ　希望人数：８人（１名につき最低３回実施） ・読み聞かせに関連し、声の出し方や表現についての講座を実施した。 実施日：３月 28 日　参加者数：38 人 ・障がい者サービスについては、１－６に記載
自己評価	・市民協働イベントのフォローアップとして市民協働イベントの決定方法や募集方法などを参加者とKPT法（Keep（継続）・Problen（課題）・Try（挑戦）の3つを考える思考方法）を用い話し合うことにより、よかった点や改善点などを参加者と共有でき、次年度以降の継続につなげることができた。 ・ブックスタート多摩市絵本かたりかけ事業に協力するボランティアに対する研修会の実施により、実際の健診会場での対応等を全員で再確認することができた。全4名の登録ボランティアの協力により、ほぼ毎回、3名体制で事業実施することができ、ご家庭ごとに丁寧にご案内することができた。

	・読み聞かせに講座初級については、昨年度と実施方法を変更し、様々な絵本を知る機会にもなるよう、より丁寧に、を念頭に全3回に渡る講座として実施できた。また、受講された方のうち1人は、読み手として図書館職員とともに読み聞かせへの参加につなげることができた。

施策４－３全体への外部評価等について

各種評価

・市民協働イベントフォローアップ講座について

アンケートでは不満はなく、75％が「非常に満足」「やや満足」と回答。参加者が市民協働イベントの仕組みや課題などについて様々な意見や提案をだして話し合えたことに対して評価が高く、今後も継続して同様の講座の開催や同じ講師を呼んでほしいとの希望が寄せられた。

・植栽ボランティア

年度末に懇談会を実施し、ボランティアからは「当初はどう活動すればわからなかったが、気楽に取り組むことができた」、「夏の水やりが暑くて大変だった」などのご意見をいただいた。また実際にボランティアが活動している様子をみて応募の声が寄せられた。

・ブックスタート

登録ボランティアの方と意見交換会を実施し、ボランティアからは、研修がよかったのでまた開催してほしいやブックスタートで渡している本についても積極的にご意見をいただき、見直すきっかけとなった。

・読み聞かせ講座（初級）

満足度としては、87％が「非常に満足」、13％が「やや満足」と回答。座学だけでなく、自主練習した絵本を実際に読み聞かせるという体験をすることは、自主練習では得られない緊張感と聞き手側からの感想や意見を聞き、改善点を知る機会となり、また、他者の読み聞かせを聞くことが多くの気づきを得る機会にもなった。図書館以外の学校など、多くの子どもたちが集まる場所での活動の参考にもなり、今後も同様の講座を希望する声が寄せられた。

図書館協議会による外部評価

・市民協働イベントについて、図書館の負担が大きいのではないか。安心、安全に関わる部分は図書館が責任を持つ必要があるが、それ以外で市民に任せられる部分は任せるなど、図書館、市民のそれぞれの役割を明確にし、うまくいっていない場合は、やり方を見直していくことも必要である。

・植栽ボランティアや宅配ボランティアなど新規募集をして、実際の活動につながっていること評価できる。継続して活動してもらうために、図書館は、活動するボランティアの気持ちを汲み取ってサポートをしてもらいたい。

・市民協働イベントの募集も含めて図書館でのボランティア活動について、活動中に何かあった場合の保険は市が入っていることを公募の際に明確にするとPRにもなり安心して活動できるのではないか。

今後の方向性

図書館による今後の方向性

※図書館協議会の外部評価を受けて、今後の事業の進め方、方向性について記載

資料２

令和８年８月19日
図書館協議会（報告）資料

図書館活動室の使用料改定について

多摩市全体で、公共施設使用料を定期的に見直すこととしており、図書館では活動室（中央図書館（3室）、関戸図書館（1室））の使用料の改定（多摩市立図書館条例の改正）を予定しています。

改定の理由　　社会経済情勢の変化や施設の維持管理費用の変動等を踏まえ、多摩市で定めている使用料の定期的な見直しを行うため。

該当施設と使用料

			市内団体使用料【市内在住・在勤・在学者が半数以上】			市外団体使用料【市内団体以外】		
施設名		利用区分	現行	変更後	差額	現行	変更後	差額
中央図書館	活動室１ 90.00㎡	9:30~13:00	1,990	**1,890**	▲ 100	3,990	**3,780**	▲ 210
		13:00~17:00	2,280	**2,160**	▲ 120	4,560	**4,320**	▲ 240
		17:00~20:00	1,710	**1,620**	▲ 90	3,420	**3,240**	▲ 180
	活動室２ 36.00㎡	9:30~13:00	770	**760**	▲ 10	1,540	**1,520**	▲ 20
		13:00~17:00	880	**860**	▲ 20	1,760	**1,720**	▲ 40
		17:00~20:00	660	**650**	▲ 10	1,320	**1,300**	▲ 20
	活動室３ 31.00㎡	9:30~13:00	660	**650**	▲ 10	1,330	**1,300**	▲ 30
		13:00~17:00	760	**740**	▲ 20	1,520	**1,480**	▲ 40
		17:00~20:00	570	**560**	▲ 10	1,140	**1,120**	▲ 20
関戸図書館	活動室 77.39㎡	9:30~13:00	1,430	**1,610**	180	2,870	**3,220**	350
		13:00~17:00	1,640	**1,840**	200	3,280	**3,680**	400
		17:00~19:30	1,020	**1,150**	130	2,050	**2,300**	250

改定日　　令和10年１月より

今後の予定

令和８年１０月　利用者への周知開始
令和９年１１月　改定後の使用料による予約開始
令和１０年１月　使用料改定（多摩市立図書館条例を改正する条例施行）